

# 政流考

幹事長人事で、のっけから混乱、船出したと思つたとたん集団離党騒動と、前原誠司代表率いる民進党の歩みは困難を極めている。

代表選の最中から前原氏は党の状況について「国民に政権交代の決意を示せば、失笑、冷笑で迎えられる」と語っていたが、今や笑いは「嘲笑」に変わりつつあると言つても大げさではないありさまだ。

今の民進党に突っ込みを入れたいところは山ほどある。しかし、それは他の専門家の方々に任せて、こんな惨状であるからこそ、期待できるかも

## 党再生担う「監獄政治家」

しれない人事に触れてみたい。

辻元清美幹事長代行である。社民党出身で、ばりばりの護憲派。若手時代から国会での鋭い政府追及で注目を集めたため、「批判だけの野党型議員」と見られがちだ。

しかし、2009年の民主党政権発足に当たっては社民党の責任者とし

の日米安保条約適用問題をどう解決するか「ロシアによるミサイル配備は明らかかな現状変更で不問に付すことは許されな

い」と「保守」の立場から安倍首相らに詰め寄り、自民党議員をつならせた。長めに経歴やエピソードを紹介したが、辻元氏に「期待できるかもしれない」とした理由はそこ

ではない。

て連立合意づくりを行い、発足後は前原氏の指名で国交副大臣を務め、

東日本大震災後には災害ボランティア担当の首相補佐官として活動するなど政権幹部としての経験も持つ。

野党転落後も今年2月の衆院予算委員会で、安倍晋三首相が進める北方領土交渉を巡って「ロシアが懸念する北方領土へ

の過程は、国民の高い支持を得て政権を獲得したものの下野、その後も低迷から抜け出せない民主党、民進党の現状と重なる。

「監獄政治家は強いよ」。アパルトヘイト(人種隔離)と戦い、長い刑務所生活を送った後、南アフリカ大統領に就いたネルソン・マンデラ氏を

ではない。

指摘したいのは、辻元氏の挫折経験である。02年、秘書給与詐欺疑惑が浮上、議員を辞職し、その後、警視庁に逮捕、起訴された。参院選での落選も経て、05年衆院選で

国政復帰した。

順風満帆な若手時代の後に地獄を見て、そこからはい上がってきているのだ。地獄に落ちるまで

故橋本龍太郎元首相がこう評したことがあった。修羅場をくぐり抜ける強さは政治に必要な資質である。

思想犯ではないが、辻元氏もまさに監獄政治家。大方が民進党の崩壊、消滅を予測する中、はい上がる強さに注目してみたい。

(共同通信編集委員 柿崎明二)

### はい上がる強さに注目